

救急外来での尿路感染症治療における緑膿菌リスク因子の検討

1. 研究の対象

2013年1月1日～2017年12月31日に当院救急外来を受診し、尿路感染症の診断で入院加療となった患者

2. 研究目的・方法

<研究の目的および意義>

救急外来において、尿路感染症は非常に common な疾患である。尿路感染症に罹患した患者の背景で施設入所歴、糖尿病、ステロイド使用歴などがある患者に対しては、尿路感染症の起因菌として緑膿菌を考慮する必要があるとあり、初期治療で抗緑膿菌活性を持つ抗菌薬の使用を行う場合がある。しかしながら、実際の培養から緑膿菌が検出されることはそこまで多くなく、しばしば救急外来では抗緑膿菌活性を持つ抗菌薬が乱用される傾向にある。本研究では尿路感染症患者における起因菌が緑膿菌となりうるリスク因子について検討し、リスクのスコアリングシステムを作成することにより抗緑膿菌活性を持つ抗菌薬の適正利用につなげていきたい。

<研究の方法>

対象

救急外来で尿路感染症という病名で入院加療となった患者。

選択基準

尿路感染症という病名は腎盂腎炎 尿路感染症 複雑性尿路感染症、閉塞性腎盂腎炎、敗血症性ショック（原因が尿路なもの）を含む

除外基準

来院前に抗菌薬投与がなされている場合 培養検査が提出されていない場合

方法

2013年1月1日から2017年12月31日の5年間に救急外来で尿路感染症に対して治療された患者を後ろ向きに抽出し、尿の培養から緑膿菌が検出された患者群と検出されなかった患者群でリスク因子について比較検討を行う。リスク因子については先行研究から考慮し、年齢、性別、尿道カテーテルの有無、泌尿器疾患の有無（前立腺肥大、神経因性膀胱）糖尿病、ステロイド使用、肝硬変の有無、90日以内の抗菌薬使用歴、90日以内の入院歴、施設入所歴、過去の培養結果ですでにSPACEが検出されているかどうか、

PCT 陽性、qSOFA2 点以上をリスク因子とする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、尿道カテーテルの有無、泌尿器疾患の有無（前立腺肥大、神経因性膀胱）糖尿病、ステロイド使用、肝硬変の有無、90 日以内の抗菌薬使用歴、90 日以内の入院歴、施設入所歴、過去の培養結果ですでに SPACE が検出されているかどうか、PCT 陽性、qSOFA2 点以上

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院 救急科 飯尾純一郎(研究責任者)

郵便番号：861-4193

住所：熊本県熊本市南区近見 5-3-1

電話番号：096-351-8000 内線 8931

以上